

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3791500022		
法人名	株式会社香風		
事業所名	グループホームプラム		
所在地	香川県綾歌郡綾川町滝宮1122番地1		
自己評価作成日	平成22年12月23日	評価結果市町受理日	平成22年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhvou.pref.kagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3791500022&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhvou.pref.kagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3791500022&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成23年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中庭での野菜作りや、花、木の世話をすることによって、季節を感じていただいたり、昔からの経験や知識を生かして、役割や達成感、充実感を感じていただけるような支援に努めています。施設内では認知症の進行状態や、身体機能のレベルに応じて個別にレクリエーションを行ったり、家事参加を促して、できることを制限せずに、入居者様の可能性をどんどん引き出せるように、日々の関わりを大切にしています。隣接する訪問看護ステーションや協力医療機関の協力を得て、体調の急変時にはすぐに医師、看護師と相談、受診ができる体制で適切な対応を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

住み慣れた地域で馴染のある人たちとの関わりを大切にし、野菜を作ったり、新聞を読んだり、習字や尺八の練習、食事などの家事に参加するなど一人ひとりの経験や知識を活かした生活の支援に取り組んでいる。「プラムお便り」で日々の暮らしの状況をご家族にお知らせしたり、体調の急変時にはすぐに医師や看護師と相談、受診ができる体制にあり、利用者や家族の安心・信頼を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホームプラム(ユニット1)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送りや、カンファレンスにてスタッフと個々の入居者に合った介護や個人を尊重した対応ができるよう話し合っている。	法人の地域密着型サービスの理念に加えて、その人らしい生活を作っていただくことを事業所の理念、目標としたケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や、近くの小学校の夏祭りや運動会に参加し交流を図っている。	近隣の小学校の運動会や夏祭りなどの行事に参加したり、地域の人達と一緒に溝さらに参加するなど交流が図れるよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会ゲートボール大会に関連施設の職員と参加し、地域住民と交流し認知症などの勉強会を行っている。また、郵便局の福祉作品展に参加出展し、地域の人々へ理解を広げるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、3月17日と11月17日に行った。会議では、行事や、介護の取り組みを報告し、意見交換を行っている。委員から出された要望や意見を職員と話し合い、改善するように努めている。	法人の他の事業所と合同で運営推進会議を開催している。利用者の日々の暮らしぶりやサービスの取り組み状況などについて報告し、家族や地域の代表者との意見交換、情報交換の場になっている。	会議の構成メンバーの検討を行い、地域の中で認知症や事業所の活動の理解が進み、ボランティアの参加、協力などの支援がより拡大されるよう期待している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員に町の保健福祉課担当者が入っており、施設の実情や取り組みを報告し、入居者の声を伝え、協力を要請している。	運営推進会議以外にも保険や制度上のことで相談するなど、関係機関として連携を持つようしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が、入居者が受ける身体的精神的弊害について理解するように努め、拘束のないケアを目指している。徘徊傾向のある入居者がいるため、玄関の施錠をしている。入居者家族に理解をしてもらっている。	身体的、精神的な拘束のないケアの実践方針は、職員間で共有している。玄関の施錠についても関係者や家族とも話し合い、理解、同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の対応を点検し、対応は適切か、改善点をチェックして、カンファレンスで報告し合うことにした。		

グループホームプラム(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護実践者研修など、職員は順次参加し、知識を深め、研修結果を共有できるように努めている。相談があった時には、介護支援事業所に相談する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設内を見学していただき、十分に説明を行い、理解納得してもらっている。入居後も疑問があれば、その都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望などを利用料支払い時や、面会時などに聞いたり、何でも言える関係作りに努めている。苦情相談窓口を設定し、外部にも連絡できるよう綾川町の健康福祉課、国保連合会の連絡先を表示している。	家族と話し合える機会を積極的に持ち、意見・要望をお聴きするようになっている。家族アンケートの希望の中から菜園づくりの取り組みを検討し、中庭に整備するなど運営に反映している。	今後、さらに、利用者・家族の意見や要望がその人らしい生活支援に活かされるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ユニットごとに職員会議を持ち、職員の意見交換を行い、月1回の代表者などのカンファレンスで意見や提案を聞けるようにしている。	法人代表者、管理者、職員が共に出席するカンファレンスは、日ごろの気付きや意見を提案しやすい環境にあり、運営に反映することができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回のカンファレンスにて、意見交換を行っている。また、管理職との面接もあり、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3か月ごとに法人内で、全体の研修会や、関連施設の研修に参加して、介護力の向上を図っている。年1回チェックシートを作り、各自の力量や実際を確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修などに参加して、介護能力の向上や、サービスの質の向上に努めると共に、他のグループホームの職員と学んだり、交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事業所内を見学してもらい、管理者、計画作成担当者がグループホーム内の生活の意向を本人や家族から聞きとるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にグループホーム内を見学していただき、本人、家族の意向を聞き取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学時にインテークを行い、担当のケアマネジャーとも連携し、入居がふさわしいか検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔からの伝統食では、入居者から作り方を教えてもらいながら、一緒に作ったりした。入居者からの挨拶や励まし、いたわりの言葉をかけてもらったりして、双方が支え合って生活を創っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の行事と一緒に参加していただいたり、月々のお便りを発行し、面会時に日頃の様子を伝えるなどをしており、家族とも一緒にグループホームでの生活を創っていく関係を作れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会だけでなく、入居者の親類、近隣者など馴染みの方の面会もあり、関係が途切れない様になっている。面会は、家族と相談の上、基本的には自由である。	入居後も家族、親類だけでなく、老人会や近隣の方々の面会も自由に行われ、馴染みの関係が継続されるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団で行う体操やレクリエーションを取り入れ、参加を呼び掛けている。食事もできるだけホールで取っていただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への移動では、訪問して、状況を聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の希望や意向に沿えるように、個別に話を聞くように努めている。思いが伝えにくい方については、職員間で話し合い、その人らしい暮らしができるように対応するようにしている。	利用開始時にはそれまでの生活スタイルや趣味、生活の意向などをお聴きし、日々の生活の中でも、利用者・家族や職員とも情報交換しながら、その人らしい生活が送れるような支援に心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の様子や、生活歴などについて、インタビューや家族、本人からの聞き取りを通して把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやユニットごとに月1回職員会議でその都度入居者の事例検討を持ち、入居者の状況を把握し、対応の工夫をするようにしている。できることを見つけ、作品作りや家事などに参加してもらうように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットごとに月1回職員会議や合同カンファレンスで、その都度、入居者の事例検討を持ち、入居者の状況を把握し、対応の工夫をするようにしている。入居者に担当職員をつけている。	モニタリングにより職員会議やカンファレンスで協議、見直しを行い、さらに、随時、利用者・家族、担当職員からの意見や要望を取り入れ介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアを生活記録に記入している。入居者個別の情報マニュアルを作成し、職員で情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状態の中で、医療的な部分については、他の関連施設に相談、協力を得ている。		

グループホームプラム(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関連施設と合同であるが、地域郵便局に施設紹介や、作品展示をしたり、近くの小学校の行事に参加して子供たちと触れ合いながら生活を豊かなものにできるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は、本人、家族の意見を聞き、緊急時には、家族に連絡を入れて行っている。	希望するかかりつけ医受診の際も、家族との連絡、相談により対応できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニット2の看護師や、隣接の訪問看護ステーションの看護師が日々の健康管理を把握してくれている。日々の状態を報告、相談し適切な診療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関が近くにあるため、急変時にはすぐに受診、相談し、場合によっては入院するなどの適切な処置が行われている。入院中も家族や医療機関、主治医と連携し、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応方針を作成しており、家族、本人、医療機関とも方針を共有している。	利用者、家族には入所時に終末期対応方針を説明し、職員はその方針を共有している。その後も、状況の変化に応じて意向を確認しながら協力医療機関との連携により、状態に応じた支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で全体の研修会で、緊急時の講習を行っており、事故防止に応じた知識を学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で防災訓練を年2回行い、法人全体で避難活動ができるよう、防災計画を作成しており、風水害対策についてもその中に組み込んでいる。	避難誘導時のマニュアルを作成し、年2回防災訓練を法人合同で実施している。電話の側に連絡網や物品配置、誘導の仕方などが貼ってあり、緊急時に慌てないよう準備されている。	職員だけの誘導・安全確保には限界のあることから、近隣住民にも避難訓練時に声かけして、事業所の取り組みを紹介し、理解・協力の得られる体制づくりが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた、対応や声かけをするようにしている。入浴は、個別に行っており、排泄や着替えもプライバシーを守るよう努めている。	職員は、利用者を人生の先輩として尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ごはんやおかずの量、飲み物など嗜好をできるだけ選択できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が孤立しないように集団レクリエーションや作業への参加を声かけしているが、体調に応じて、自分のペースで生活できるように見守ったり、できる家事、畑仕事、散歩に参加できるよう声かけしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師を頼み、希望を聞きながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を聞き、献立に取り入れたり、調理の準備、配膳、片付け、食器洗い、食器拭きなど入居者の能力を把握し、その人に合った参加を働きかけている。	誕生日には利用者の好むものを献立に取り入れたり、おやつを一緒に作ったり、また、準備や片付けなどにも参加しながら食事の時間が楽しいものとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士による栄養指導を受けており、栄養のバランスや適切な量を摂取できるようにしている。食事量は、生活記録に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日最低2回(朝と夕)、個別に見守り、声かけ、職員によるブラッシング、入れ歯の手入れを行っている。		

グループホームプラム(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して、声かけ、誘導を行っている。下着、リハビリパンツ、オムツを昼夜で使い分け、オムツの使用を必要最小限に努めている。	利用者の様子や行動からさりげなく声かけ・誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた個別の支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、水分摂取を多めにしたり、腹部マッサージをしている。水分を多く摂取してもらうため、飲み物の種類を増やし、とろみ剤を利用して飲みやすい飲み物を提供できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のプライバシーを守りながら、安全に入浴ができるよう、入居者に合わせた入浴方法を取っている。	入浴剤を使用したり、入浴の順番や方法など希望を聞きながら入浴が楽しめるよう工夫、支援ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に安定剤を服用している。昼間の活動量を増やしたり、穏やかに安定できる雰囲気を作るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医療機関の往診時に、処方薬について、医師や看護師に確認している。薬局から出る薬事箋もカルテに綴じ、服用されている薬について理解し合うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる力に応じて、家事参加や作品作りなどの作業へ参加をしてもらっている。庭に畑を作り、野菜を作ったり、草抜きも生活の中に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に応じて、近隣への散歩を行っている。	家族の協力も得ながら、散歩・買い物など利用者の希望に沿えるよう努めている。この春には、花見を計画している。	

グループホームプラム(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に出納帳を作り、必要な時に家族の確認のもと、職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて、連絡するなどの対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量、日光の眩しさをある程度調整している。トイレ、浴室は分かりやすく表示している。	デイルームや食堂は明るく、落ち着いた雰囲気である。季節の花が生けられ、飾ってある作品からは日々の生活がうかがえる。また、コーヒーなどの飲み物も準備されており、ソファや椅子で思い思いに居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置し、気軽に休息できるスペースにしている。食堂のテーブル、椅子の配置も入居者の様子に合わせて工夫して配置するようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込む家具については、基本的に自由である。昔馴染みの家具を持ってきている入居者もある。	使い慣れたソファを持ちこんだり、好みのカーテンを準備していただいたり、室内の飾りつけなどでその人らしく居心地よい生活ができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下には手すりを設置している。台所も入居者の安全性を考え電磁調理器にしている。トイレの表示も分かりやすくしている。庭の物干し竿も低めにしており、入居者が家事に参加しやすいようにしてある。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送りに加え、スタッフで月に1回集まり、業務や各入居者状況や対応について話し合う機会を作っている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校で行われている夏祭りや運動会などの行事に参加し、交流を図っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会ゲートボール大会に関連施設職員が参加し、地域住民と交流を図ったり、地域郵便局へ作品展示に参加出展し、地域の人々へ理解を広げるよう努めている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成22年11月17日に会議を開催。食事に関しての取り組みを報告し、施設周囲の環境整備に関する要望を伝え、入居者家族からの意見も多く聞くことができ、サービス向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が相談に行き、交流を図るよう努めている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは、入居者が受ける身体的精神的弊害について理解するように努め、拘束のないケアを目指している。徘徊傾向のある入居者がいるため玄関の施錠を行っているが、入居時家族への説明を行い理解してもらっている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者への対応について職員間で話し合いを持ち、配慮すべき対応方法に担当者を設け、各々が気を付けて虐待行為を未然に防げるように努めている。

グループホームプラム(ユニット2)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護実践研修など、スタッフは順次参加し、知識を深め、研修結果を報告し、他スタッフと共有できるように努めている。相談があった時には、介護支援事業所に相談できる体制にある。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にグループホーム内の見学をしていただき、十分に説明を行っている。入居書類は、全て読み上げ、質問がある場合は、細かく説明し、理解してもらっている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に関しては、詳しい内容と経過を追って記録するようにして、再発防止とサービスの向上につなげている。外部にも連絡できるように綾川町健康福祉課、国保連合会の連絡先をエレベーターホールに掲示している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が一人ひとりに意見を聞き、月1回の話し合いの場で決定、周知し職員全体で統一したケアを実践できるように努めている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回のカンファレンスにて、意見交換を行ったり、日々の申し送りや随時話し合いを持ち、気づきや意見交換を行い、改善案などを取り入れている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3か月に1回、法人内で全体会議や関連施設の会議の中で、随時研修を行っている。県の実践者研修にも順次参加している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修や町が開催する介護従事者の研修会などに参加し、職員の介護能力の向上やサービスの質の向上に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事業所内を見学してもらい管理者、計画作成担当者がグループホームでの生活の意向を本人、家族から聞き取るように努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人、家族からの意向を聞き入れている。意向を聞く時間を取るように努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学時にインテークを行い、他の事業所のケアマネジャーとも連携し、入居がふさわしいか検討する。他職種からの意見も聞き入れている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者に合わせて、できる範囲での家事への参加を促し、役割を持って生活にメリハリがつくように努めている。お礼の言葉や挨拶を大切にしている。
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事へ一緒に参加していただいたり、月々のお便りや面会時に、日頃の様子を詳しくお伝えできるようにしている。面会時にはゆっくりとお話できる環境作りをしている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会だけでなく、入居者の馴染みの方の面会もあり、馴染みの関係が途切れない様に努めている。面会は、家族と相談の上、基本的には自由である。また来ようと思っただけのような明るい挨拶など気持ちのよい対応に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団でラジオ体操を日課とし、参加の呼びかけを行っている。個々のトラブルに関しては双方の言い分を平等に聞き、早々に解決に向けて対応するように努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への移動後も訪問して状況を聞くようにしている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の希望や意向に沿えるように個別で話を聞くように努めている。思いが伝えにくい方については、スタッフ間で話し合い、その人らしい暮らしができるように対応するように努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の様子や生活歴などについて、インタビューや家族、本人から聞き取りを通して把握するように努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや話し合い、申し送りの際に入居者についてできることを見つけ、作品作り、家事などに参加してもらうように取り組んでいる。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞きながら、計画作成担当者が入居者担当を中心にプランを作成し、申し送り時やカンファレンスでスタッフ全員で確認、見直しを行っている。最新のプランがすぐ確認できるようにファイルを作っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを基にした生活記録を作成し、日々ケアが実践できているか、確認できるようにしている。プランの見直しもしやすいように工夫している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状態の中で医療的部分については、他の連携施設に相談、協力を得ている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関連施設と合同であるが、地域の獅子舞に来てもらったり、地域郵便局に施設紹介や作品展示をするなど、昔馴染みの行事を楽しんだり、自分のできることを見つけて作品を作ったりして日々の生活を豊かなものにできるよう努めている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は、本人、家族に意見を聞き、緊急時には、家族に連絡をして行っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を配置し、日々の心身面の状況を把握している。また、隣接して訪問看護ステーションがあり、看護師が巡回に来て健康管理をしてくれている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関が近くにあるため、急変時にはすぐ受診相談し、場合によっては入院するなど適切な処置が行われている。入院中も家族や医療機関、主治医と連携し情報交換に努めている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応方針を作成しており、家族、本人、医療機関とも方針を共有している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の全体会議で緊急時の救命法の講習を行っており、事故防止に応じた知識を学ぶ機会を設けている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内での防災訓練を年2回行い、法人全体で避難活動ができるよう防災計画を作成しており、風水害時の対策も組み込んでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの言葉使いや呼び方に関して、職員間で話し合いを持ち、常に意識して丁寧な対応ができるよう努めている。各居室、入浴や排泄、更衣時に関してきちんとドアを閉め、プライバシーを守っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	嗜好調査を実施し、食事形態や味付けに関して配慮している。本人からの外出や物品の購入などの要望に関しては、職員で情報交換し必要があれば家族の承諾も得て実現に向けて取り組んでいる。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が孤立しないよう集団での体操や食事はなるべく一緒に行うようにしているが、心身面の状況に応じて居室で休む時間を作ったり、個別に家事参加やレクリエーションの参加も行っている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来てもらい、希望を聞きながらカットや顔そり、毛染めを実施している。衣類の選択も、できる人にはしていただく。行事などで特別にお化粧をしたり、アクセサリーを使用している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成の際、入居者が好む献立を取り入れるようにしている。調理の準備や配膳、下膳、食器洗いや食器拭きなど、できる方に声かけし一緒に行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の施設の管理栄養士による栄養指導を受けており、栄養のバランスや適切な量を摂取できるように努めている。食事摂取量は、毎日、水分摂取量は、少ない方に関して記録するようにしている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日朝、夕食後に口腔ケアを実施している。個別に義歯の洗浄や管理を行ったり、ブラッシングの際には付き添い声かけにて丁寧に磨いてもらえるようにし、口腔状態の観察も実施している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄パターンがチェックできるよう生活記録を参考にして誘導を行ったり、言葉で訴えられない方に関しては、行動を観察しどのような時にトイレの声かけや誘導を行うべきか職員で話し合い実施している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外にも、水分補給の時間を持ち、水分を多く取ってもらっている。なるべく無理のない程度に日中の離床を促し、活動時間を増やしている。排便チェックを実施し、個別に時間を把握し、下剤や整腸剤など薬の調整を行っている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用して、色や香りを楽しんで入浴していただけるよう工夫している。入浴時間をスタッフと入居者が1対1でゆっくりと話せる時間として大切にしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に安定剤を服用している。夜間に十分な睡眠をとっていただけるように、なるべく日中の離床を促している。季節に合わせて寝具や室温の調節を行い、清潔保持に努めている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医療機関の往診時に、処方薬について医師看護師に確認している。薬局から出る処方箋を参考に薬品名、服薬回数、量、効能、注意事項などを一覧表にして掲示している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の得意なこと、好きなことに合わせて個別のレクリエーションを行ったり、調理補助、野菜作りなどに参加していただいている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調に応じて、近隣への散歩を実施している。一部の入居者であるが、家族の方の協力も得て、定期的に自宅への外出・外泊も行えている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に出納帳を作り、必要な時に家族の確認のもとスタッフが購入している。近隣施設の自動販売機まで飲み物を買いに出かけている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて、連絡するなどの対応をしている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や天候によってホールの電気を調節している。トイレは分かりやすいように手作りの札をかけている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	余暇時間は個別に席を設けず、思い思いの席でゆったり過ごしていただけるようにしている。食事の席に関しては、入居者の様子に合わせてある程度席を決めている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込む家具については、基本的に自由である。家具配置に関しても本人や家族の意向を優先している。担当を決めて、掃除や定期的な荷物の整理整頓を実施し、環境整備にも努めている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを配置してあり、移動の際伝って安全に歩行できるようにしている。電磁調理器なので、火を使わず、台所に入っても安全に調理が行える。